

八戸市の二酸化炭素排出量の推移

(単位：万 t)

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
	(基準年度)												
産業部門	206.3	197.9	187.7	195.2	188.8	221.1	221.3	200.1	216.8	201.9	204.5	209.1	198.4
工業プロセス	66.8	62.4	48.3	56.3	57.1	60.8	61.3	60.3	63.0	62.3	64.5	65.2	65.1
運輸部門	56.2	55.8	55.4	55.1	54.9	54.8	54.5	54.2	53.8	53.4	53.0	52.5	50.5
民生家庭部門	55.3	54.7	56.0	59.7	59.1	63.9	66.7	65.1	60.4	65.6	60.4	57.3	57.7
民生業務部門	28.5	30.4	29.8	28.6	26.8	32.3	32.4	31.5	29.4	29.0	26.6	27.2	25.7
廃棄物	4.2	4.5	4.0	3.3	1.9	3.7	5.1	5.9	4.6	5.4	5.4	6.1	6.2
エネルギー転換	2.4	2.0	1.7	1.5	2.6	2.9	2.4	3.6	2.7	2.1	1.8	1.6	1.7
総計	419.9	407.6	382.9	399.6	391.2	439.5	443.7	420.7	430.7	419.8	416.3	419.1	405.3
基準年度比増減		△12.2 △2.9%	△37.0 △8.8%	△20.3 △4.8%	△28.7 △6.8%	19.7 4.7%	23.9 5.7%	0.8 0.2%	10.8 2.6%	△0.1 0.0%	△3.6 △0.8%	△0.8 △0.2%	△14.5 △3.5%

(単位：万 t)

年度	2007	2020											
	(基準年度)												
産業部門	206.3	182.2											
工業プロセス	66.8	59.4											
運輸部門	56.2	49.9											
民生家庭部門	55.3	52.8											
民生業務部門	28.5	24.2											
廃棄物	4.2	5.2											
エネルギー転換	2.4	1.6											
総計	419.9	375.3											
基準年度比増減		△44.6 △10.6%											

※端数処理の関係により、縦計が合わない場合がある。

※「都道府県別エネルギー消費統計」の推計方法変更等のため基礎資料を遡って改訂したことにより、以前公表した推計値を遡って改訂したため、以前公表した推計値とは基本的に接続しない。

* 2017年度の二酸化炭素排出量は、基準年度(2007年度)比で3.6万t(0.8%)削減した。主な要因として、運輸部門からの二酸化炭素排出量が、人口減少に伴い減少したことと、工業プロセス部門からの二酸化炭素排出量が、生産量の減少に伴い減少したことが挙げられる。

- * 2018 年度の二酸化炭素排出量は、基準年度(2007 年度)比で 0.8 万 t (0.2%) 削減した。主な要因として、運輸部門からの二酸化炭素排出量が、人口減少に伴い減少したことや、産業部門の非製造業からの二酸化炭素排出量が、炭素排出量の減少に伴い減少したことが挙げられる。
- * 2019 年度の二酸化炭素排出量は、基準年度(2007 年度)比で 14.5 万 t (3.5%) 削減した。主な要因として、産業部門と運輸部門からの二酸化炭素排出量が減少したことが挙げられる。
- * 2020 年度の二酸化炭素排出量は、基準年度(2007 年度)比で 44.6 万 t (10.6%) 削減した。主な要因として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に起因するものと考えられる市全体のエネルギー消費量の減少が挙げられる。

図1 市内における2020(令和2)年度の二酸化炭素排出量の部門別割合

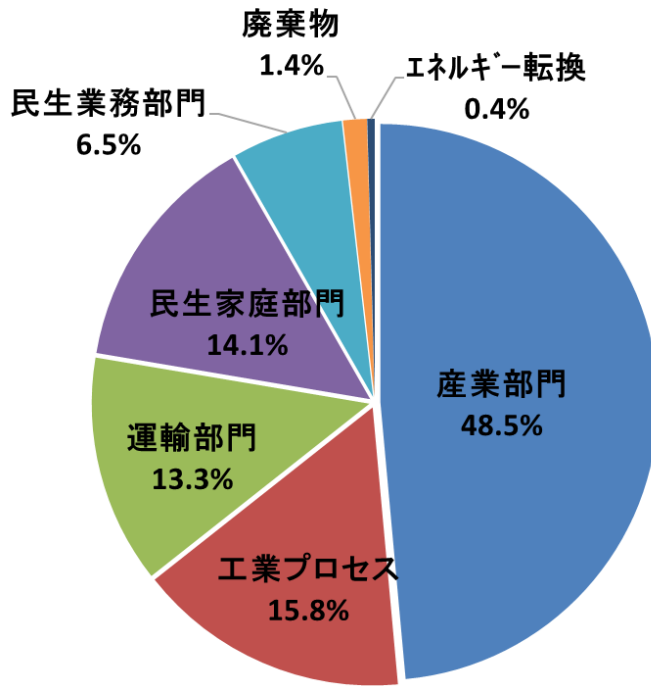


図2 市内の二酸化炭素排出量の推移

